

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果から読み取れる、児童生徒や学校の状況

調査人数 小学6年生 1,106名 中学3年生 1,112名

(1) 学力調査から

- ・正答率は実施した全ての教科で宮城県及び全国値を下回った。
- ・昨年度と比べ、小学校算数の全国との差が小さくなった。
- ・中学校数学と英語は全国との差が大きい。
- ・平均正答数で見ると、小学校中学校ともに、あと1問多く正解することで、全国値を上回るか、それに近い数値となる。
- ・国語では同音異義語の使い方や語句の理解、文章の要約、算数・数学では、基礎的な計算問題等に大きな課題が見られる。
- ・今年度初めて実施した中学校英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域で課題が見られる。
- ・記述問題においては、どの教科も無解答率が高い。また、依然として最後まで解答しようとせず、途中であきらめてしまう傾向がうかがえる。

【課題が見られた基礎的・基本的な問題の一部】

- 小国語** ・文中の漢字 「公衆電話について、かんしんをもってもらいたいと思います。」
 ・文の書き直し

公衆電話を必要な時に使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

上の文を2つに分け、終わりの5文字と、二文目の「そこで、」に続く5文字を書く。

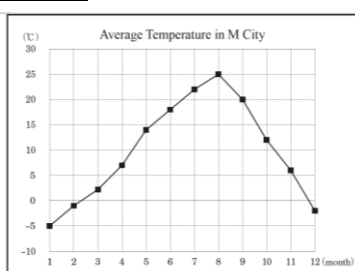
- 中算数** ・連立方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解きなさい。

- ・反比例の式の立式 下の表を見て、 y を x の式で表しなさい。

X	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	3	6		-6	-3	-2	...

- ・2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求めなさい。
 ただし、硬貨の表と裏の出方は、同様に確からしいものとします。

- 中英語** ・グラフから読み取り、正しい英文を選ぶ。



- 1 It is colder than 0°C in February and hotter than 20°C in June.
- 2 October is not warmer than April.
- 3 It is hotter than 25°C for three months.
- 4 It is the hottest in August and the coldest in January.

(2) 学校質問紙調査から

○：成果　△：課題

①授業の工夫・改善について

- 「学力向上に向けた5つの提言（宮城県教委）」、教職員の心構えである「石巻市立学校教職員スタンダード（石巻市教委）」、新学習指導要領の趣旨等に基づいて、授業の工夫・改善に取り組んでいる状況がうかがえる。
- 小学校は「一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価」している。
- △小中学校ともに「各教科で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けること」が課題である。

②家庭学習について

- 昨年度同様、家庭との連携・協力がよく図られている。
- 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら、児童生徒に教えている。

③教科指導について

- 国語、算数・数学、英語（中学校のみ）の授業では、補充的な学習の指導が十分行われている。
- △国語、算数・数学、英語（中学校のみ）の授業における発展的な学習の指導には、課題がある。
- △国語において、「書く習慣を付ける授業」は十分行っているが、様々な文章を読む習慣を付ける授業には課題がある。

(3) 児童生徒質問紙調査から

○：成果　△：課題

- 「将来の目標や夢をもっている」と肯定的に回答している割合は、小学生で8割以上、中学生で7割以上であり、小・中学生ともに、6年続けて全国値を上回った。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と思っている割合は、小・中学生とも9割を超えており、わずかながら全国値を上回った。
- 「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」と回答した割合は、小学生は全国値を上回った。中学生は、上回っていないものもあるが、昨年度と比較し数値が上昇している。
- △「平日に1日当たり小学生で1時間以上、中学生で2時間以上勉強している」と回答した割合は、全国値を大きく下回った。
- △「先生が自分のよいところを認めてくれている」と感じている割合は、高くなってきており、小学生が全国値を上回っているが、中学生は下回った。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は、小学生が全国値を上回り、中学生は全国値並みであった。
- 小学生は「国語、算数の勉強が好き」と肯定的に回答しており、「授業の内容もよく分かる」と回答している割合は、全国値を上回った。
- △中学生は「国語、数学、英語の授業の内容がよく分かる」と肯定的に回答している割合は、国語は全国値を上回ったが、数学と英語については全国値を下回った。
- △読書に親しんでいる児童生徒の割合（1日30分以上）は、小学生は3割台で全国値を下回った。中学生は、2割台に減ったが、全国値を上回った。

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果・分析に基づき、石巻市子どもの未来づくり事業を展開する中で、4つの課題に取り組んでいく。

1 教員の指導力向上

- 「学習指導の改善を図る研修会」を定期的で開催し、「学級づくり」「人間関係づくり」「信頼関係づくり」「児童生徒理解」の4つの視点から、教員の力量形成を図る。
- 「社会性と情動の学習」「協同学習」「友達同士で支え合う活動」「児童生徒の、望ましい行動に対する積極的な介入と支援」を意図的・計画的に実践することにより、「石巻市立学校教職員スタンダード」の具現化を図る。
- 学力向上マネジメント支援事業の成果を他の小・中学校にも波及させる。
- 主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善に取り組んでいく。
- 石巻市教科等指導員の取組において、「協同学習」の授業の実践等をまとめ、教員の指導力向上の推進の一助とする。

2 基礎・基本の定着を図る学習指導の徹底

- 学習の根幹をなすものを「文章を読む力」であると考え、授業や朝の読書活動の推進を行う。
- 漢字の同音異義語、長文の読み取り問題、基本的な計算問題に課題が見られたことから、これを当該教科ばかりではなく他教科にも関連させて、基礎中の基礎となる事項は「全ての児童生徒に身に付けさせるもの」として指導を徹底し、確実に身に付けさせる。
- 全国学力調査の過去問題や類似問題に挑戦させ、つまづいた課題について、個別指導に生かす。
- 家庭学習の内容を検討し、児童生徒が自主的に学習に取り組めるような体制を学校としてつくる。

3 児童生徒の、自己有用感の醸成

- 小・中連携のもと、子ども未来づくりフォーラムの取組等を生かし、児童生徒の志を高める取組を推進する。
- 学校の教育活動全体を通して、「人を思いやる心」「命を大切に作る心」「ふるさとや自然のすばらしさを感じ取る心」を養う。
- 体験活動の充実を図り、他者と協力したり困難を克服したりする良さを味わわせる。

4 生活習慣及び学習習慣の確立

- 「早寝、早起き、朝ごはん」のより一層の推進を図る。
- 児童生徒個々の生活習慣を把握し、心配な児童生徒には個別の指導や声かけを行うとともに、家庭におけるより良い生活習慣・学習習慣についてまとめた「5つのトライ！いしのまき」を用い、家庭に対する啓発を行う。
- 家庭学習時間の確保、家庭学習の仕方、家庭学習の内容について、小・中で連携した取組を行うとともに、家庭との連携を図る。